

- ・青少年育成甲州市民会議・石和中
- ・日下部警察署・笛吹市生涯学習課
- ・結の家・笛吹高・科学館・御坂中
- ・産技短・塩山高・ことぶき勤学院
- ・山梨高・ろう学校

峡東教育事務所 地域教育支援スタッフ Tel 0553-20-2731 Fax 0553-20-2733

## コロナ・自然災害・・・ 地域社会で生きること

峡東教育事務所 副所長 廣瀬 学

山梨市 三富地区の自然豊かな山なみ

この四月から峡東教育事務所で副所長を務めさせていただいております廣瀬学と申します。

この紙面をおかりして、地域社会の役割について、今感じていることを書かせていただきたいと思います。

菅総理の退陣表明があり、あるメディアでは「無責任」と街角の声を取り上げていました。「無責任」の真偽は別にして、一方で私たち国民の「責任」は果たせていたのだろうかと考えさせられました。コロナ禍では、3密の回避はもとより、不要不急の外出の自粛など様々な制約が求められています。私たちは、今自信をもって協力できていたと言えるでしょうか？それは私自身にも自問したいことです。

コロナ禍の医療現場を「災害級」とあるとメディアはよく表現します。台風・豪雨による土砂災害や洪水、地震、津波などの被害によって起きる医療現場の状況と同じであるということです。であるならば、その「災害級」の対応には、共通点があるはずで



過去の例では、東日本大震災の時に「釜石の奇跡」と言われた、釜石市の小中学校の防災教育があります。いつ起こるか分からない災害に対して子どもたちや保護者・地域が、確実に生き残るために真剣に取り組んだ防災教育の「軌跡」であり、決して「奇跡」ではないと言われています。個人がそして地域社会が、自分たちの命や生活を自ら守ろうとしたのです。



釜石市の防災教育を指導した片田敏孝先生は、震災以降全国で同じような指導を行っています。その中で「想定に捕らわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」の「避難三原則」を伝えています。自分に向かい合うこ

と、積極的な主体性を発揮することがこの三原則の中に示されています。

もし、今のコロナ禍が医療現場にとって「災害級」であるならば、それを少しでも克服していくためには、「釜石の奇跡」のように、私たち一人ひとりが「自分に向かいあうこと」「積極的な主体性を発揮すること」、つまり私たちができる限り新たな感染者にならないように努力するしかありません。



昭和 63 年、敷島中学校教諭として教壇に立つ。現場の教頭、義務教育課管理主事を経て今年度から教育事務所勤務。趣味は庭造り。

片田先生は、「主客未分」という仏教の言葉を地域防災になぞらえます。行政と自分を「助ける側」「助けられる側」に分けるのではなく、わたしたち一人ひとりが「積極的な避難行動」をとることが大事、ということです。まさに、菅総理に対する「無責任」は、主客を分ける言葉に思えてしまいます。

私たちの地域社会は、コロナなどの感染症、自然災害や交通災害などに対し、起きた時のために備えをしています。また差別や貧困など、さまざまな課題に対し、絶えず取り組みを進めています。そして、これからもその歩みを止めることはできません。それぞれがより主体的により積極的に課題に向きあうことが大切です。それが、地域社会に対する地域社会に生きる者の責任であると思います。





## 一瀬 英史 氏の講演会

## 青少年育成甲州市民会議

今年度の峡東地域教育推進連絡協議会と甲州市教育委員会との共催である「保幼・小・中連携セミナー」は、新型コロナウイルス感染急拡大のため、県の外出自粛要請期間に入り中止とせざるを得なくなりましたが、講師予定であった一瀬 英史 氏による講演会が6月30日に同じ会場で実施されていましたので、ご報告いたします。

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」「社会を明るくする運動強調月間」において青少年育成甲州市民会議と「社会を明るくする運動」推進委員会は、甲州市教育委員会と塩山、勝沼・大和ライオンズクラブの後援を受け、「さわやか講演会」を実施しました。



開会式で祝辞を述べる鈴木市長

演題は「里山マインドのストレスコーピング」でした。「里山マインド」とは、人が暮らす「里」と人が踏み入れない「深山」の中間領域で、人が手入れをしながら自然の恵みを得られる持続可能な「里山」の生活環境に心の環境を重ねた一瀬氏の造語です。「里マインド」とは現実社会や日常生活で考え感じ行動するマインドであり、「深山マインド」とはイメージや夢、偶然や身体症状の意味などを大切に非日常的なマインドで、カウンセリングにおけるアプローチの両輪とされています。この中間領域の心への働きかけが、現代の多様なストレスを抱える子どもたちへの良い対処（コーピング）に役立つとのことでした。

意識と無意識の境界は、子どもたちの発達段階によって変わるものだと思います。「発達段階に応じた子どもとの接し方」について、峡地連では来年度こそ一瀬氏にご講演いただこうと計画しています。改めてご案内できた折りには、是非ともご参加いただけますようお願いいたします。

## オリンピック・パラリンピック推進教育事業

## 笛吹市立石和中学校

石和中では7月12日、東京オリンピック開催を前に、笛吹市出身で前回のリオデジヤネイロオリンピックにウエイトリフティング日本代表選手として出場した中山陽介さんを招き、講演会と交流会を行いました。中山さんは他の一般的なオリンピック選手のように練習を優先できる企業選手ではなく、笛吹市教育委員会生涯学習課に務めながら、母校である日川高校の練習場に通り詰め、代表権を獲得した異例の経歴の持ち主です。講演では生徒たちに、オリンピックの競技会場や選手村の部屋や食堂の様子、他競技の選手との交流の思い出などを話すとともに、目標達成までの練習計画の立案と着実な実践の重要性と、家族や同僚などの周囲の支えがなければ目標は達成できなかったことを熱く語りました。最後に「あいつ頑張っているから、応援したいな。」と思ってもらえるような人になって欲しい、とメッセージを送っていました。



生徒が持ち上げようと挑戦するも、1mmも動かないバーベルと、実際に聖火リレーで使われたトーチ



100kgのバーベルを軽々と挙げて見せる中山さん

## 宇宙の学校

## 甲州市生涯学習課・認定NPO法人 子ども・宇宙・未来の会



開校式で挨拶する小林教育長

甲州市は認定NPO法人子ども・宇宙・未来の会(KU-MA)の共催を受け、身の回りにある材料や道具を使って家族と楽しみながら実験や工作を行う家庭学習と、親子で一緒に広い会場に集まって工作を楽しむスクーリングを組み合わせた「宇宙の学校」を開催しています。第1回は6月5日、塩山体育館において23組の小学生の親子が、開校式とJAXA宇宙教育指導者の宮川広さんによる講演を聞き、光の屈折を学びながら万華鏡の製作を行いました。また、夏休み中の自由研究としても使える、30種類ものテーマについて学ぶことのできる家庭用テキストが配布されました。スクーリングの方は7月の第2回が悪天候による災害警報のため中止、9月の第3回もコロナ感染急拡大のため中止となりましたが、12月に予定されている第4回までに各家庭でレポートを仕上げ、発表し合うとのことでした。



鏡の角度で虚像の数が変わる実験に夢中になる親子

スクーリングの方は7月の第2回が悪天候による災害警報のため中止、9月の第3回もコロナ感染急拡大のため中止となりましたが、12月に予定されている第4回までに各家庭でレポートを仕上げ、発表し合うとのことでした。



## 夏休み前 防犯教室・交通安全教室

日下部警察署 生活安全課・交通課

甲州市立奥野田小学校・菱山小学校 山梨市立山梨小学校・日下部小学校・加納岩小学校

山梨県警察各署では、日頃から管内の学校に様々な啓発活動を行っています。日下部警察署でも多くの学校から依頼を受け、夏休みに入る直前の児童

たちに気をつけて欲しいことを伝えました。

生活安全課による防犯教室では、夏に増加する「声かけ事例」を題材に、不審者役の職員が巧みな言葉で児童たちを誘い、その場から逃げて助けを求める練習や、防犯ブザーの作動確認などをしました。

交通課による交通安全教室では、今夏、千葉県で起きた集団下校中の痛ましい死傷事故例から、歩行中の注意事項などについて講話を行いました。いずれも普段から自宅や学校周辺で危険が潜む場所や危険な

状況を事前に意識させることで、子どもたちでも安全の対策ができるように工夫されていました。また、7月21日にはオギノ甲州店前で、山梨県警察のマスコット「ふじ君」らが交通安全協会などの方々と街頭指導を行い、地域住民に対し交通安全への意識を高めました。



危険を察知し、走って逃げる奥野田小の児童



不審者の特徴を警察官に伝える山梨小の児童



各教室で放送室からの講話を聴く日下部小の児童



終業式集団下校前に話を聴く加納岩小の児童



街頭指導を行う交通安全協会の方々と「ふじ君」



講話後、警察官にお礼を述べる菱山小の児童

## 真夏のスケート体験と親子あしがわ自然体験

笛吹市教育委員会は、笛吹市青少年育成推進協議会が主催する「フッキー体験塾」を開催しています。

7月18日には小瀬スポーツ公園アイスアリーナにおいて、山梨県アイスホッケー連盟の方を講師に、基礎からスケートの滑り方を教わり、アイスホッケーのスティックを使ってシュートにも挑戦しました。屋外は猛暑でしたが、参加した子どもたちは、夏でも涼しい氷の上でスケートを楽しんでいました。



森に入り、リスがかじった「松ぼっくり」を探す

また7月22日には芦川グリーンロッジにおいて、施設長の神宮司さんや、生涯学習課の職員、5名のコーディネーターの先生方などを講師に、ニジマスの掴み取りに挑戦し、掴まえた魚を家族と一緒に捌き、炭をおこして塩焼きにしたり、森の中で様々なミッションに挑戦するオリエンテーリングを楽しみました。参加した親子たちは、気持ちの良い大自然の中でのさまざまな体験を、心と体一杯に満喫していました。いずれの活動も、成長期の多感な子どもたちにとって普段の生活では接することの少ない貴重な体験であり、今年の夏休みの楽しい思い出になっていました。



自分たちで掴まえた魚を自分たちで捌き、炭火で焼いて食べる



水鉄砲で賞品のお菓子の袋を狙い撃つ子どもたち

## 笛吹市生涯学習課



シュートの練習の様子

もたちにとって普段の生活では接することの少ない貴重な体験であり、今年の夏休みの楽しい思い出になっていました。



## 防災クラフトと子ども農園

結の家-笛吹・防災ブレイメン  
笛吹市市民活動支援課・山梨県立笛吹高等学校



ヘルメットにデコレーションする様子とペットボトルで作成したランタン

結の家-笛吹・防災ブレイメンは7月30日に笛吹市とともに「こども防災クラフトワークショップ」をスクレーセンターにおいて開催しました。参加した児童たちは、スタッフの大塚さんと三枝さんより、大切な自分の命は自分で守ることの指導を受けた後、防災意識を高め、災害時に役立つ紙の食器やペットボトルのランタンを作成したり、ただで持ち運びができるヘルメットにデコレーションしたりしました。

また、8月3日には、笛吹高校とともに「夏休み子ども農園」を笛吹高校の農場において開催しました。参加した児童たちは、笛吹高校の古屋先生の指導のもと、野菜や果物について実がなる仕組み等を学んだ後、笛吹高校生5

名に手伝ってもらいながら、野菜や果物の収穫体験や、笛吹高校で育てた花の中から好みの花を選んでプランターに植え込み作業を行いました。収穫した野菜や果物は格別においしく、プランターの花は各御家庭で見事な花を咲かせていることでしょう。



学習会と花をプランターへ植え込む様子

## 目には見えない不思議な力 公益財団法人ふえふき文化・スポーツ振興財団 山梨県立科学館

ふえふき文化・スポーツ振興財団は、夏休み中の子どもたちのために、山梨県立科学館の出前公演による「サイエンスショー」を開催しました。7月31日、会場となったスクレーセンターには約120名の親子が集まり、科学館職員による様々な演示実験を通して「空気の流れ」について学びながら楽しい時間を過ごしました。



空気砲の煙に喜ぶ親子

シャボン玉の実験では、シャボン液の粘性を高める方法や複雑な形の作り方など、表面張力の仕組みを学び、どこまでも高く、遠くまで飛ぶ大小様々なシャボン玉に大喜びしていました。

また、ダンボール箱の「空気砲」実験では、会場内にいくつもの円を描きながら勢いよく進む煙の輪に、大人も子どもも大興奮し、あちこちで歓声が上がっていました。普段の生活の中で取り組める科学実験の方法も教えていただき、夏の暑さを吹き飛ばす、思い出深いひとときになりました。



空気の流れで大小様々なシャボン玉を飛ばしたり、巨大風船を空中で静止させる演示実験に盛り上がる会場

## ～いじめ傍観者で終わらないために～

御坂中では平成19年に「脱いじめ5か条」を制定しており、いじめのない中学校を目指して生徒会活動で取り組んでいます。今年度は5か条の第1項目である「だめだよと言える強い心」に焦点を当て、実際にいじめが疑われる状況に遭った時、自分自身がどう動くべきかを全校で考えました。7月5日に行われた一斉道徳授業では、「私たちの選択肢」というビデオ教材を視聴し、ワークシートを活用して自分の考えをまとめ、クラス内で話し合いました。

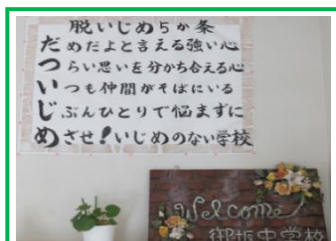


生徒会役員による「いじめ」をテーマとした寸劇

それを受けて7月9日には「いじめ傍観者で終わらないために」と題して全校集会を行い、各クラスの委員長が代表してクラスごとに決めた目標やルールを発表しました。

また、生徒会役員による寸劇も披露され、真に迫る演技に惜しめない拍手が送られていました。目標やルールは決めたら終わり、ではなく、それまでの取り組みも含めてこれからの実生活にどう活かしていくかが本題です。いじめに限らず、自分たちの問題を自分たちの力で解決しようという、自治的意識を育てる取り組みであると感じました。

笛吹市立御坂中学校



生徒玄関に大きく掲示してある「脱いじめ5か条」



## 小学生夏休み工作・自由研究教室

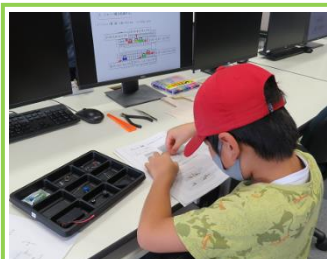
## 山梨県立産業技術短期大学校

産業技術短期大学校では、毎年夏休みに生産技術科、電子技術科、情報技術科、観光ビジネス科の4学科がそれぞれの分野の特色を活かした「きっすチャレンジ小学生夏休み工作・自由研究教室」を開催しています。7月30日に行われた今年は、36名の定員に対し、54名の応募があり、抽選によって選ばれた地元の小学生たちが、ゴムの動力でコロコロ走るペットボトルカーや、光センサーで手の

動きを検知して音階が変わるふしぎなテルミン風ミュージック玩具、写真が飛び出して見える本格的な3Dメガネ、山梨県の観光や産業のデータを活用した統計グラフの作成に挑戦しました。なかには難しく慎重な作業もありましたが、参加した小学生たちは先生方のアドバイスを受けながら、それぞれ工夫をくわえて、楽しい夏休みの思い出となる素敵な作品を仕上げていました。



ペットボトルカーを好みにカスタマイズ(生産技術科)



細かい基板に苦戦しつつ慎重に作業(電子技術科)



厚紙を丸く切り抜いてレンズを取り付け(情報技術科)



果物生産量の統計グラフを作成(観光ビジネス科)

## インターンシップで地域の事業所と交流

## 山梨県立塩山高等学校

塩山高校では夏休みを利用して、2年生全員と3年生の希望者が、峡東地区を中心に38カ所の事業所の協力のもとインターンシップを実施しました。職種は製造業、販売業、サービス業など多岐にわたります。この地域の次世代を担う高校生たちが、職場での体験から広い視野で社会

を見る力を身につけ、社会人としてのルールやマナーを学び、働くことへの意欲や関心を醸成することができました。また、事業所側にとっても地域の高校生との繋がりを作ることができ、仕事内容や事業所の魅力を伝える絶好の機会となりました。今年度は笛吹高校でも2月に実施予定です。



シャトレーゼ塩山店で商品陳列や接客を行う生徒



日下部警察署で指紋採取(鑑識)を体験する生徒



ガーデン甲斐で好みの花を選び、花束を作る生徒



甲州市役所で広報紙の仕分け作業を手伝う生徒

## ことぶき勸学院・活動報告

## 山梨ことぶき勸学院

なかなか収束の兆しの見えないコロナ禍ですが、山梨ことぶき勸学院では、高齢者のワクチン接種の進み具合もあり、各教室ごとに少しずつ活動を再開しています。

7月9日には甲斐市の双葉ふれあい文化ホールにおいて、中北・甲府・峡東・峡南の学院生が雅楽鑑賞を行いました。



甲府教室で様々な講演を聴く峡東地区の学院生ら

雅楽は平安時代からある世界最古のオーケストラ(管弦楽)と呼ばれ、笙(しょう)や箏(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)といった管楽器に、琵琶(びわ)、箏(そう)の絃楽器、鞆鼓(かっこ)などの打楽器を組み合わせた器楽合奏です。また、演奏中に拍子が次々と変わる「八多羅(やたら)」、呂の音階と律の音階が合わない「呂律(ろれつ)が回らない」、笙で音が出ない2管の「也と毛(やぼ)」など、雅楽を語源とする日常語もたくさんあります。参加者は雅楽の歴史や演奏法などの解説を受けた後、荘厳な舞や演奏を十分に堪能しました。



山梨県神道雅楽会会長による解説と、荘厳な雅楽の演奏

## 金田一秀穂 館長の講演会 ～考える国語～

山梨県立山梨高等学校

山梨高校では20年以上前から積極的に「朝読書」を行っており、その長い歴史のなかで、読書を習慣づけるための様々な取り組みも行ってきました。もちろん、自らの趣味や探究心を満たすために読む本を探す生徒もいますが、「高校生は他人に勧められて本を読む」というデータもあるように、世間で話題になっている本や、仲の良い友人が興味をもった本を、自分も読んでみようと思うことから読書が始まることも多いです。昨年は朝読書の成果として多くの生徒が山梨県立図書館主催の「贈りたい本大賞」に応募し、学校賞の最高賞である館長賞を受賞しました。その記念として今年の7月9日に金田一館長が来校し、「考える国語」と題して講演会が行われました。読書感想文は読み終えてから書き始めるよりも、書きながら読み、今後の展開を考えて書いてみることや、メディアの情報を鵜呑みにせず、疑問をもってみることなどのアドバイスをいただきました。



何事に関しても「考えることが大切」と語る山梨県立図書館の金田一秀穂館長

## ろう学校がコミュニティ・スクールへ

山梨県立ろう学校

山梨市の大野地区にある県立ろう学校は、来年度よりコミュニティ・スクールとなるための準備を始めました。県立学校としては身延、白根、吉田高に続いて4例目、特別支援学校ではもちろん、峡東地区としても初となります。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の方々とともに知恵を出し合い、学校運営に参画することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みをもつ学校のことです。7月15日に行われた第1回学校運営協議会設置準備委員会では、県教委、学校評議員、その他の関係者などが一同に会し、学校側から様々な取り組みに対して説明を受けた後、それぞれが建設的な意見を出し合いました。これから更に子どもたちのために協力し合い、地域の方々にも温かく見守られながら、地域からも求められる学校になっていくことを期待します。



音声認識システムを用い、発言内容がその場で文字化されていく会議の様子

## 峡東教育事務所からのお知らせ

※ 7月8日（木）に実施されました『子育て講演会』の報告書を配布しました。ご参加いただいた皆さまから様々なご意見、ご感想をいただき誠にありがとうございました。来年度に活かし、これからも皆さまにとってより良い講演会となるよう努力してまいります。

※ 次回の峡地連主催講演会は、笛吹市教育委員会と共催の『人権のための講演会』になります。11月18日（木）午後3時～いちのみや桃の里ふれあい文化館に作家の江宮 隆之 氏をお招きし「日本と世界の架け橋に～人類愛の根底にあるもの～」と題して講演を行います。

次々と変異株が現れているコロナウイルスの感染状況は予測不能ですが、県からイベント自粛要請が出されない限り、7月の『子育て講演会』同様、会場開催とオンライン会議システム（Zoom）を併用して実施します。いずれの場合も、参加申し込みは11月4日（木）までに各職場・関係機関でとりまとめる申し込み票にて、またはメール・電話・FAXなどで、以下まで直接ご連絡ください。

メール：[shimegi-pwyg@pref.yamanashi.lg.jp](mailto:shimegi-pwyg@pref.yamanashi.lg.jp)

電話：0553-20-2731 FAX：0553-20-2733

### PDF版をご覧ください

『エリアウェブ』はPDFのカラー版を峡東教育事務所のホームページに掲載中です。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、ホームページを開けます。是非ご覧ください。



エリアウェブ  
ホームページ

ホームページアドレス

<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/backnumber.html>

### ご意見をお寄せください

『エリアウェブ』のご意見・ご感想・取材情報をスタッフ一同お待ちしております。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールでご連絡いただくか、表紙上部の連絡先にご連絡ください。



E-mail アドレス

[kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp](mailto:kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp)

お問い合わせ